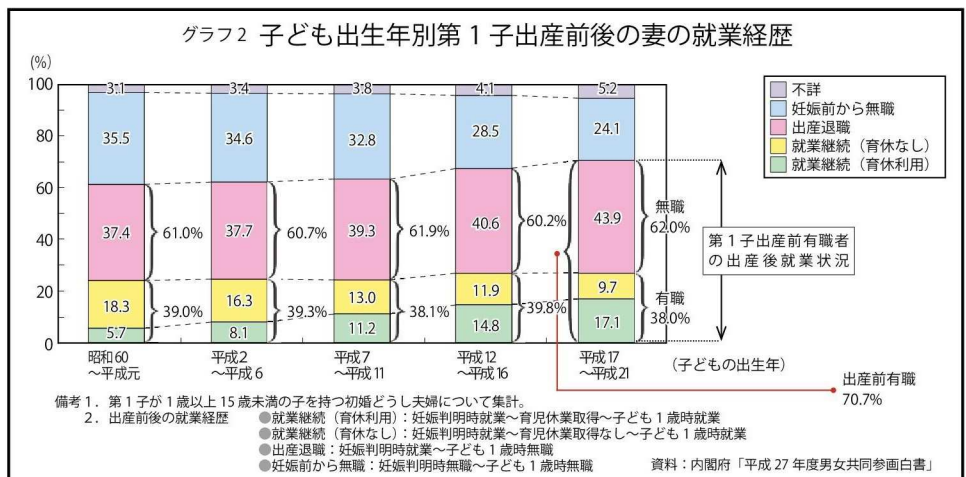
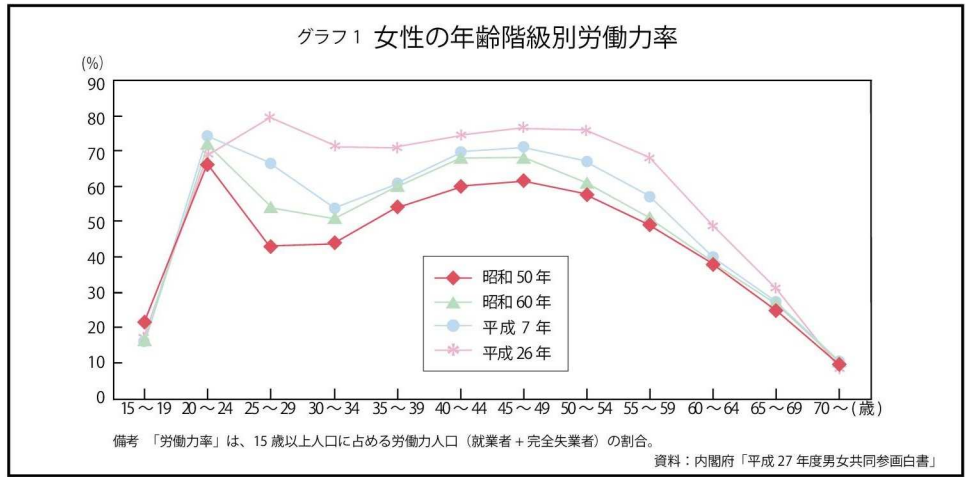


特集  
もっと身近に！  
男女共同参画  
Gender Equality  
special

性別に関わりなく個人の能力を發揮し、働き続けることのできる社会を目指して！

問 男女共同参画についての相談に応じます。お気軽にお問い合わせください。  
企画政策課 男女共同参画室 Tel: 474-1111 (内線 250・258)



仕事と生活の調和を図るための環境づくり  
少子化が加速し、高齢化社会が進展している中で、性別に関わらず多様な生き方の選択が可能となり、人生のそれぞれの段階において、様々な活動に関わることができるよう就業環境の整備が求められています。仕事と私生活の両立には、働き方の見直しが必要ですが、その前提として、性別や雇用形態の違いによる差別的な扱いを無くし、男女の均等な機会と待遇の確保を推進することは重要な課題です。  
仕事と生活の調和がとれてこそ、労働者が意欲を持ち、能力を十分に發揮できる職場環境にあると考えられます。仕事中心の生活や仕事を持ちながら家事や育児、介護を行うことに負担を感じている人は少なくありません。働く場において女性よりも優遇されてきたとされる男性側からも長時間労働の問題等を含めた働き方の見直しが求められています。

女性が仕事をしやすい環境を整えるためには何が必要だと考えますか？

<p>保育所・放課後児童クラブ（学童保育）など子育て環境の整備充実</p> <p>33.8%</p> <p>女性 31.7% 男性 36.7%</p>	<p>育児・介護休業制度の普及</p> <p>33.8%</p> <p>女性 31.7% 男性 37.0%</p>	<p>家族や夫の理解協力</p> <p>38.3%</p> <p>女性 42.3% 男性 34.0%</p>
<p>労働条件の整備（労働時間短縮、フレックスタイム制の普及）</p> <p>20.7%</p> <p>女性 19.9% 男性 21.9%</p>	<p>雇用機会の創出・再雇用制度の促進</p> <p>23.0%</p> <p>女性 20.1% 男性 26.9%</p>	

志布志市男女共同参画に関する意識調査（平成23年度実施）の上位5つを抜粋

日本の働く女性の現状  
女性は人口の半数、労働人口の約4割を占めています。その半数以上は非正規雇用です。女性の年齢階級別労働力率について昭和50年からの変化をみると、出産前に仕事をしていた女性の半数以上が第1子の出産を機に退職し、その多くが出産・育児期に就業を中断することから、30代を底とする「M字カーブ」を描いています。（グラフ1）  
育児休業を取得する女性は増えていますが、出産前後に就業を継続する割合は増えておらず、6割以上の女性が出産を機に離職する傾向が続いています。（グラフ2）

女性は仕事を辞めないといけなのかな？